

# コロナショック下の米大統領選挙

双日総研チーフエコノミスト  
吉崎達彦

- \* 2020年はアメリカの歴史の転換点に
- \* 雇用統計に現れた大異変
- \* 意外に持ちこたえるトランプ支持率
- \* コロナ対応で真逆の民主・共和
- \* 重要なのは接戦州での黒人票の動向
- \* 民主党は下院だけでなく上院でも勢い
- \* 新型コロナウイルスは大統領選挙にどう影響するか
- \* 注目される民主党の副大統領候補
- \* 大統領選挙後の対中政策に変化はあるか
- \* バイデン優勢の流れは持続するか



柴生田 それでは開会いたします。

本日はすっかりおなじみでございますので改めてご紹介の必要もないかと思いますが、双日総研の吉崎さんにおいでいただきました。日本もさることながらアメリカは今年が大統領選挙でございます。トランプの再選がなるかどうかたいへん気になるところであります。ただ、コロナもアメリカでは大流行いたしましたし、一方で黒人の拘束死をきっかけにたいへんな人種差別反対の運動が盛り上がりつつあります。さまざまなことが絡み合っているこの大統領選挙をどう見たらいいか、そのところを吉崎さんにじっくりお話をさせていただきたいと思えます。それではよろしくお願いたします。

2020年はアメリカの歴史の転換点に

吉崎 よろしくお願いたします。双日総研の吉崎でございます。

とにかくこの3カ月ぐらいコロナ以外の話を聞いたこともないし、したこともないという状態が続いておったんですが、きょう6月19日は今夜から何とプロ野球も開幕すると。やっとなし日常が戻ってきたということになります。そうやって考えてみると、アメリカの大統領選挙がこの秋にはある。やっとなしこのほうにも気が回るようになってきたかなと思えますので、今日はその話をしてみたいと思えます。

とは言いましても、この大統領選挙もコロナ抜きでは語れません。漫画を2点ご紹介します。